

法 学 〈 P 4 〉

教員名

教養・医学教育大講座 法学

教授 神谷 隆一

I 一般学習目標

法を抽象的な原理として捉えるのではなく、具体的な問題に即して捉え、法を社会的統制の一つとして、実社会との関連の中で理解する。また、法的思考力を身に着ける。

II 個別学習目標

1. 法の役割を説明することができる。
2. 法の基本概念を説明することができる。
3. 基本的人権について基本的理念を説明することができる。
4. 新しい人権、自己決定権とインフォームドコンセント・インフォームドアセントについて基本的理念を説明することができる。
5. 国の統治機構についてについて基本的理念を説明することができる。
6. 刑法の基本理念を説明することができる。
7. 医師の守秘義務、カルテの改ざんと証拠隠滅罪、チーム医療と信頼の原則について説明することができる。医療過誤と刑事責任をめぐる裁判例の基本的な考え方を説明することができる。
8. 財産法の基本理念を説明することができる。
9. 医療過誤と民事責任をめぐる裁判例の基本的な考え方を説明することができる。
10. 親族法の基本理念を説明することができる。
11. 相続法の基本理念を説明することができる。
12. 労働法の基本理念を説明することができる。
13. 多様な価値観を理解することができる。社会人として必要な法的思考をすることができる。社会人として必要な法的知識を説明することができる。(各講義項目共通)

III 教育内容

講義項目

1. 法学を学ぶ意義（幾つかの裁判例に即して考えてみる）①・②
2. 法とは何か、法源、法の分類、法の解釈
3. 国家と法（基本的人権総論）
4. 国家と法（新しい人権、自己決定権とインフォームドコンセント・インフォームドアセントなど）

5. 国家と法（統治機構）
6. 犯罪と法（総論）
7. 犯罪と法（医師の守秘義務、カルテの改ざんと証拠隠滅罪、チーム医療と信頼の原則、医療過誤と刑事責任をめぐる裁判例など）
8. 財産と法（総論）
9. 財産と法（医療過誤と民事責任をめぐる裁判例）①・②
10. 親族関係と法
11. 相続と法
12. 労働と法

IV 学習および教育方法

講義形式で行う。

V 評価の方法

期末試験 72%、授業毎に提出するミニッツペーパー 28% で評価する。ただし、ミニッツペーパーの提出割合が 3 分の 2 に満たない場合は、期末試験の受験を原則として認めない。

VI 教科書・参考書

教科書：池田真朗編『プレステップ法学〈第4版〉』（弘文堂）

池田真朗他編集代表『法学六法'20』（信山社）

参考書：伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣）

その他、講義中に適宜紹介し、必要に応じ参考資料を配布する。

※講義には必ず『プレステップ法学〈第4版〉』と『法学六法'20』を持参すること。

講義日程表(法学)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R2. 4.16	(木)	2	法学を学ぶ意義(幾つかの裁判例に即して考えてみる)①	法学	神谷
2	R2. 4.23	(木)	2	法学を学ぶ意義(幾つかの裁判例に即して考えてみる)②	法学	神谷
3	R2. 4.30	(木)	2	法とは何か、法源、法の分類、法の解釈	法学	神谷
4	R2. 5.7	(木)	2	国家と法(基本的人権総論)	法学	神谷
5	R2. 5.14	(木)	2	国家と法(新しい人権、自己決定権とインフォームド コンセント・インフォームドアセントなど)	法学	神谷
6	R2. 5.21	(木)	2	国家と法(統治機構)	法学	神谷
7	R2. 5.28	(木)	2	犯罪と法(総論)	法学	神谷
8	R2. 6.4	(木)	2	犯罪と法(医師の守秘義務、カルテの改ざんと証拠 隠滅罪、チーム医療と信頼の原則、医療過誤と刑事 責任をめぐる裁判例など)	法学	神谷
9	R2. 6.11	(木)	2	財産と法(総論)	法学	神谷
10	R2. 6.18	(木)	2	財産と法(医療過誤と民事責任をめぐる裁判例)①	法学	神谷
11	R2. 6.25	(木)	2	財産と法(医療過誤と民事責任をめぐる裁判例)②	法学	神谷
12	R2. 7.2	(木)	2	親族関係と法	法学	神谷
13	R2. 7.9	(木)	2	相続と法	法学	神谷
14	R2. 8.27	(木)	2	労働と法	法学	神谷